

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 増田 郁夫
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

学校いじめ防止基本方針の点検と見直しのために

各学校では、学校いじめ防止基本方針(以下、学校基本方針)を策定し、これに基づいて取り組んでいます。学校基本方針は、策定した後も、さらに期待された成果があげられるよう改善していくことが大切です。そこで、管内の状況を踏まえ、点検のポイントと見直しの例をまとめましたのでご活用ください。

生徒指導リーフ増刊号 Leaves.1 (P.21⑤)を参考に次の3つのポイントから点検してみましょう。

<ポイント>

◇ 個々の教職員が、自分が今、何をすべきかが分かるものでしたか。

(見直しの例)

学校基本方針の共通理解に基づく共通実践が大切です。そのためには、共通理解を図る場を、年間を通して計画しておく必要があります。

いじめを把握したときの対応については、関係する子どもや保護者への指導・助言・支援の手順をもっと具体的で分かりやすいものにするとういと思います。

先生方の教育相談技術の向上を図るなど、本校のニーズに合った「いじめ防止に関する研修」を盛り込んでほしいです。

(A校:教務主任)

(B校:生徒指導主任)

(C校:研修主任)

「重大事態」が発生した場合についても、適切に対応できるか見直しておくことが大切です。

◇ 保護者・地域が、何を協力すればよいか分かるものでしたか。

いじめの未然防止・早期発見には保護者・地域との連携が大切です。協力してほしい内容をもっと具体的に示し、発信していくとういと思います。

ネット上のいじめが心配なので、啓発活動を盛り込んで、保護者の理解と協力を得る必要があると思うのですが。

(D校:情報担当)

学校基本方針や取組の進捗状況等を適宜、情報発信したり、意識啓発・意見聴取の取組を企画したりするなど、保護者や地域の方が学校に協力しやすい状況がつかれているか見直してみるとよいでしょう。

◇ 学校が子どもをどのように育てようとしているかが分かるものでしたか。

目標を具体的な子どもの姿で示せば、教職員全員でどのような子どもを育てたいかを共有できます。

いじめに向かわない子どもを育てるためには、未然防止の取組をもっと具体的に示す必要があります。「どのような取組を」「どのくらいの回数」「どの学年のどの学期に」という段階まで示すとよいと考えます。

さらに、次のポイントからも点検してみましょう。

◇ 学校の実態を踏まえて、課題解決を図れるものでしたか。

◇ 子どもが、主体的な取組を通して自発的に行動できるようになるものでしたか。

◇ PDCAサイクルを意識し、評価・改善が図れるものでしたか。

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」(増刊号Leaves.1・2、Leaf.13)を参考に作成

各学校における点検と見直しが、学校基本方針の実効性を高めるとともに、子どもの成長や教職員の資質向上にもつながることを期待します。

第2期群馬県教育振興基本計画(取組38)には、「すべての小・中学校において学校支援センターの機能を一層充実させ、学校・家庭・地域が連携した学校づくりを進める…」とあります。

利根沼田管内では、学校の求めに応じた地域の方の支援により、様々な教育活動が行われ充実してきています。その一方で「地域の方と連携して、さらに教育効果を高めるには、どうすればよいのか」という声も聞かれます。そこで、今回は、「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」での事例発表から参考となる実践を紹介します。



担当教諭

片品中学校の実践例：『国語科（書写指導）で村書道協会3名の方が協力』

事前に支援ボランティアの方へ打合せ用紙を使って、本時のねらいや活動内容を伝えています。

打合せでは、支援ボランティアの方に「どんな場面で何をしてもらおうのか」を明確に伝えます。

本時のねらいは『これまで学習した行書の特徴を意識して配列よく書く』ということです。

配列よく書くために、生徒にどこを工夫すればよいのか考えさせたいので、1枚書き終えて自己課題を見つけたところでアドバイスをお願いします。



行書は、墨を付けたら一つの字を一気に書き上げるので、他の字とのバランスをとるのが難しいですね。

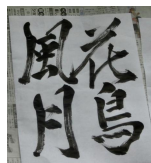
分かりました。他の人たちにも伝えます。

授業では、一人一人の課題を把握し、支援ボランティアの方と協力しながら指導します。

月の字は他の字より画数が少ないので、バランスをとるのが難しいのですが…



あっそうか！字のバランスと全体のバランスが分かった気がするので、ためしてみます。



あなたは、月の字の形をもう少し細く書くといいですね。そうすると白い隙間ができて他の字とバランスがとれて、とてもよくなると思います。

おっ！バランスがよくなってきましたね。いい字ですね！！



書道協会

授業後は、支援ボランティアの方の意見や感想等を聞いて今後に生かします。

一人一人に対応したアドバイスをありがとうございました。みなさんのおかげで、最初に書いた字と最後の字を比べるとすべての生徒が上手になったのがよく分かります。生徒たちは、何回も褒められたので、とても喜んでいました。



今後も書写では、一人一人の活動をさらに充実させていきたいので、多くの方の御協力をお願いします。本日は、大変ありがとうございました。

子どもたち一人一人の字には、味わいがあったのです。場面ごとに先生が一声かけてくれたので、話すタイミングが分かり、スムーズに教えることができました。私たちも大変勉強になりました。次回を楽しみにしています。



生徒一人一人の意欲が高まり、支援ボランティアの方のやりがいにもつながっています。このような活動を継続していくためには、学校として組織的な取組が重要です(学社連携推進担当教諭の出番です)。



学社連携推進担当

片品中学校で取り組んでいることをお伝えします。

- 全職員で教育活動や活動記録を見直して、必要なニーズを掘り起こしています。
- 年度初めに学校支援センター年間指導計画を基に全職員で共通理解を図っています。それを支援ボランティアの方にも配付して準備等に役立ててもらっています。

これからも学校支援センターの機能を生かして、学校と地域が手を携え、子どもたちの活動を充実させていきましょう。